

詩篇 16 篇

16:1 神よ。私をお守りください。私は、あなたに身を避けます。

16:2 私は、【主】に申し上げました。「あなたこそ、私の主。私の幸いは、あなたのほかにはありません。」

16:3 地にある聖徒たちには威厳があり、私の喜びはすべて、彼らの中にあります。

16:4 ほかの神へ走った者の痛みは増し加わりましょう。私は、彼らの注ぐ血の酒を注がず、その名を口に唱えません。

16:5 【主】は、私へのゆずりの地所、また私への杯です。あなたは、私の受ける分を、堅く保っててくださいます。

16:6 測り綱は、私の好む所に落ちた。まことに、私への、すばらしいゆずりの地だ。

16:7 私は助言を下さった【主】をほめたたえる。まことに、夜になると、私の心が私に教える。

16:8 私はいつも、私の前に【主】を置いた。【主】が私の右におられるので、私はゆるぐことがない。

16:9 それゆえ、私の心は喜び、私のたましいは楽しんでいる。私の身もまた安らかに住まおう。

16:10 まことに、あなたは、私のたましいをよみに捨ておかず、あなたの聖徒に墓の穴をお見せにはなりません。

16:11 あなたは私に、いのちの道を知らせてくださいます。あなたの御前には喜びが満ち、あなたの右には、楽しみがとこしえにあります。

はじめに

詩篇 16 篇は、非常に私的なヘブル語の詩で、聖書の神のすばらしさに焦点を当てた喜びの歌です。著者はダビデ王で、表題に「ミクタム」と記されている最初の詩篇です。

この「ミクタム」という表題は一般的に、個人の考えや秘め事を明かすというヘブル語の意味で理解されます。

この詩篇では、ダビデが自らの心のうちを読み手に明かしています。

ダビデはこの詩篇で、自分が学んだ人生の信条を表現しています。

その人生の信条がダビデを「満ち足りた人生」へと導きました。

何かが満たされると、それ以上何も入りません。

ダビデの人生は、神のすばらしさに満ちていたもので、他のものをさらに望むことはありませんでした。

ダビデの喜びは、神のみで完結していました。

この詩篇の一番の奥義は、ダビデにとって神がリアルなお方であったことです。

この詩篇にはたくさんの代名詞が登場します。これは、ダビデが常に、神と自分自身を重ね合わせていたということです。

ダビデが、自分をお造りになった創造主なる神と非常に親しく個人的なつながりがあったことをあらわしています。

これらの代名詞は、神におけるダビデの喜びを表現します。(3,6,9,11 節)

この詩篇は、メシア詩篇とも呼ばれます。

ペテロが降臨節に福音を語った際に引用したからです。(使徒 2 : 25-28)

ペテロは、この詩篇がイエスについて語っていると言いました。

パウロも使徒 13 : 35 で神の恵みとすばらしさをたたえ、この真理を主張しています。

私は、この詩篇が金塊のようなものだと思います。

その価値がすたれることはありません。

ダビデにとって、神なしの人生など無意味でした。

この詩篇を学ぶことで、私たちがますます神に近づくことができ、私たちの創造主であり所有者なるお方との関係が深まりますように。そして、信徒同士の交わりも深まりますように。

まだクリスチャンでない人は、今まで自分の力では得られなかったものを神が与えることができる、ということはこの詩篇から知ることができますように。

それは、神の与えてくださる満ち足りた人生です。

この詩篇では、ダビデに満ち足りた人生を与えた5つの要因を確認していきましょう。

1. 神は、ダビデのいのちの源。(1-6節)

2節の、「私の幸いは、あなたのほかにはありません」という言葉は、英語の新欽定訳では、次のように訳されています。

「私の良さは、あなたを離れては無です。」

ダビデは、すべてのクリスチャンが認めるべきことを認めていました。

クリスチャンは皆、神の御子イエス・キリストを信じる信仰によって心の中に住まわれる神の聖霊だけが自分のうちにある善であると認めるべきです。

私たちのうちに働く神の聖霊にゆだねることによってのみ、良いこと、言い換えると神の業が起こるのです。

私たちの人生におけるすべての良いことは聖霊をとおしてやってきます。その源は神です。

イエス・キリストをとおして神を知ることは、人生の最大の特権です。

神殿で歌を歌う役割を担っていたアサフは、詩篇73:25で神について次のように語りました。

「地上では、あなたのほかには私にだれをも望みません。」

そして28節では、「しかし私にとっては、神の近くにいることが、しあわせなのです。」と語ります。

ウォレン・ウィーズビーは、自身の注解書でこのみことばについて次のように記しました。

「自分に何か良い部分があって、それは神から与えられたものではないと思うなら、それは良いものではない。」

ヤコブ1:17は「すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は上から来る」と語ります。

イエスもヨハネ10:10で、「盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。」とおっしゃいました。

イエスは、サタンとこの世を指して盗人という単語を使っておられます。

神が私たちの人生に与えようとなさるすべての良いものを盗み滅ぼすことがサタンの目的だとイエスは言うておられるわけです。

一方、神は私たちに豊かで満ち足りた人生を与えようとしておられます。

そのいのちの源は、唯一イエス・キリストです。

イエスは、その豊かで満ち足りたいのちを与えると約束なさいました。そして、私たちの罪の罰を受け、十字架上で死なれました。私たちが約束されたいのちを受けるにふさわしい者とみなされるためです。

ふたりの男の人が広大なサハラ砂漠を旅していました。

ふたりはらくだに乗り、自分たちの前に進んだ旅人たちの足跡をたどって注意深くゆっくりと砂漠を渡っていました。

しかし突然、荒涼とした砂漠に激しい砂嵐が起こり、ふたりは近くの洞穴に逃げ込みました。嵐が静まると、たどるべき足跡はもはや見えませんでした。

ひとりには両手を天に伸ばし、絶望して言いました。「迷ってしまった。もうどうしようもない。」

もうひとりはその時何も言いませんでした。やがて夜になり、何も言わなかった男性が空を見上げて言いました。「私たちは迷っていない。星がある。神がここにおられるのだ。」

人生に意義も行くべき道も見出せないとき、生甲斐と意義を与えてくださるのは神です。

ダビデは、自身が空っぽだったときに神が彼を満たし、生甲斐と目標を与えてくださることを知りました。

神は、ダビデの霊のいのちと善の源でした。

私たちにとっても、霊のいのちと善の源は神でなければなりません。

2. 神は、ダビデの人生を導かれる。(7 節)

次に、ダビデに満ち足りた人生を与えた要因は、神の導きです。

7 節の後半「まことに、夜になると、私の心が私に教える」という言葉があります。

これについては、後ほど改めて説明します。

神は、私たちが暗闇を手探りで進み、行くべき道やなすべきことを模索することを望んでおられません。

神は、ご自身のみことばである聖書とご自身の聖霊を与えてくださっています。

詩篇 119 : 105 は、「あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。」と語ります。

また、ローマ 8 : 14 には、「神の御霊に導かれる人は、だれでも神の子どもです。」とあります。

私は 26 年前、スコットランド国教会の福音派牧師ウィリー・スコット師とお会いしました。私が日本で宣教師だったとき、スコット師は一文の手紙をよく送ってくださり、とても励まされました。

あるとき、私はスコット師の教会にいました。私は非常に困難な状況に置かれていたので、この有名な説教者が何らかのアドバイスをくれるのではと期待していました。

スコット師は私の話をひとつお聞き、言いました。

「アリスティアさん、あなたにも私と同じだけの知恵が与えられていますよ。あなたにも聖書と神の聖霊があるではないですか。」

彼の言う通りです。それこそ、私が聞かなければならない言葉でした。

この個所を離れる前に、夜に教えられるというダビデの証について考えましょう。

彼は、「まことに、夜になると、私の心が私に教える」と言いました。

インドの聖書学者セオドア・ウィリアムズ博士は、次のように言っています。

「私たちが眠るとき、神は私たちの良心の感性を目覚めさせ、神のみこころをなすように導かれる。神は、私たちの潜在意識に働きかけ、翌日に正しい選択ができるよう知恵と導きを与えてくださる。」

ウィリアム博士が正しければ、良質の睡眠と夜の祈りは不可欠ということになります。

私たちの思考を神に最適化していただき、みこころにかなった思いを確信させていただくためです。

私たちが夜眠っている間に、神は不純物を取り除くことができになるのです。神をたたえます。

悪の力も夜に働きますが、神もご自身の子どもたちのために夜に働いてくださいます。

だから、夜に大切な決断をしないようにしましょう。翌日の朝まで寝かし、朝に祈ってから決めましょう。

3. 神は、ダビデのいのちを守るお方。(8-9 節)

ダビデは、神のご臨在がいつもそばにあることを常に意識していました。

ダビデにとって「喜び」とは、神が安全をしっかりと守ってくださる結果得られるものです。

ダビデにとって神はボディガードのような存在でした。

神の助けなしに生きながらえることはできません。

主権者なる神の守りは、私たちの上にもあります。神の目的が果たされるためです。

イエスが地上を去る準備をしておられたとき、イエスの代わりとなる助け主を神が送ってくださると言って弟子たちを安心させました。

この助け主は、聖霊というかたちで与えられました。

すべてのクリスチャンには、聖霊というボディガードがうちに与えられています。

ヨハネ 14 : 15-18

14:15 もしあなたがたがわたしを愛するなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。

14:16 わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。

14:17 その方は、真理の御霊です。世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちにおられるからです。

14:18 わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません。わたしは、あなたがたのところに戻って来るのです。

4. 神はダビデに将来への希望を与えられた。(10 節)

満ち足りた人生をダビデに与えた大きな要因のひとつは、死後に神とともにいられるという未来への希望でした。

彼は、いつの日か自分の体が復活すると信じていました。

神とそのすばらしさを喜んで、その祝福をすべて死ぬ瞬間に失ってしまうなら、それは悲しいことです。

パウロは、コリント第一 15 : 19 で「もし、私たちがこの世にあってキリストに単なる希望を置いているだけなら、私たちは、すべての人の中で一番哀れな者です」と語りました。

ペテロもペテロ第一 1 : 3 で次のように語っています。「私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちが新しく生まれさせて、生ける望みを持つようにしてくださいました。」

使徒パウロは使徒 13 : 35 で、イエス・キリストが死から復活したことを証明するために、この詩篇の個所に言及しています。

ダビデがこの時点でイエス・キリストの死と復活についてどのようにして悟っていたのかは、なかなかわかりませんが、それは重要ではありません。

大切なことは、私たちがどこで永遠を過ごすかです。

死を目前にしたクリスチャンで、私がこれまで時間をともに過ごすことのできた方々は、天国に行くのが待ちきれない様子でした。より良い未来への希望を現実のものとして抱いていたからです。

私は、皆さんがイエスを自らの救い主として受け入れ、愛しておられることを願います。

もしそうであるなら、皆さんにも、ダビデや私と同じ希望があります。

その希望とは、イエスとともに永遠を過ごせるという保証です。

聖書は、この世で起こる悪い事柄は次の世には存在せず、神からの良い物事は次の世にすべてであると教えます。

黙示録 21 : 1-8

21:1 また私は、新しい天と新しい地とを見た。以前の天と、以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。 21:2 私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとを出て、天から下って来るのを見た。 21:3 そのとき私は、御座から出る大きな声がこう言うのを聞いた。「見よ。神の幕屋が人とともにある。神は彼らとともに住み、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らとともにおられて、 21:4 彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しきものもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである。」 21:5 すると、御座に着いておられる方が言われた。「見よ。わたしは、すべてを新しくする。」また言われた。「書きしるせ。これらのことばは、信ずべきものであり、真実である。」 21:6 また言われた。「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である。わたしは、渇く者には、いのちの水の泉から、価なしに飲ませる。 21:7 勝利を得る者は、これらのものを相続する。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。 21:8 しかし、おくびょう者、不信仰の者、

憎むべき者、人を殺す者、不品行の者、魔術を行う者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者どもの受ける分は、火と硫黄との燃える池の中にある。これが第二の死である。」

5. 神は、ご自身の臨在によってダビデを喜びで満たされた。(11 節)

米国の名門ハーバード大学のある教授は、現代を「扇情の時代」と呼び、次のように語っています。

「現代は、快楽を追及する時代である。人は希望に応じたエンターテイメントや娯楽を求めるが、決して満足しない。普通のもの、自然なものでは満足できず、ゆがんだ快楽へと足を踏み入れていく。手に入れば、もっとほしくなるのだ。しかし神は、永続する喜びや楽しみを与えようと約束しておられる。その喜びや楽しみは、私たちを心から満たしてくれるだろう。」

ダビデは、神のご臨在の中にいることこそ、人生のもっともすばらしい体験であることを知りました。

私たちを満たす神のご臨在を知る秘訣は、ヨハネ 14 : 21 に記されています。

「わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛する人です。わたしを愛する人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身を彼に現します。」

イエスに愛されていることを知り、イエスを愛するなら、神のみことばに従います。この関係と従順が、神のご臨在を喜び、人生を喜びで満たしていただく体験への道です。

私は、1985-1987 年の 2 年間、フェイス・ミッション聖書学校に通いました。

その間、私は聖霊による本物のリバイバルについて多くを学びました。

そのいくつかは、英国のルイス島のリバイバルのときにクリスチャンになった女性から学んだことです。

この女性は、リバイバルのときに神の力強いご臨在によって、不思議なかたちでたましいが祝福されたと言います。

ずいぶん昔のことですが、神がルイス島に降臨されたとき、エンターテイメントなど必要ありませんでした。神のご臨在が満ちていたからです。

神のご臨在が、当時そこにいた人々を喜びで満たしたので、人はそれ以外何も求めなかったのです。

結局のところ、私たちの人生が終わるときに必要なのは神のご臨在だけです。

そして、私たちがイエスを信じる信徒ならば、神のご臨在の中にまさしく永遠にいられるのです。

けれども、もしかすると、今現在、神のご臨在をまったく感じられないという人がいるのではないのでしょうか。

ダビデは詩篇 16 篇で、彼が得た満ち足りた人生の見つけ方を私たちにも教えてくれます。満ち足りた人生を享受するために必要な 4 つのステップを示してくれています。

1. 神の忌み嫌われる事柄を悔い改める。(2 節)

ダビデは、自分の罪深さを自覚していました。自分のうちに良いものはまったくないとわかっていました。神だけが唯一、彼の義の源であることも認識していました。

神の満ちしを体験するには、まず独善的な自分自身を悔い改めなければなりません。

独善とは、聖書の神に受け入れてもらうために自分で設定した基準です。どんなものであっても、神の要求される 100%の聖さにはかないません。

ですから、自分自身についての考え方を改め、神のみことばを受け入れる必要があります。

神のみことばは、正しい人はただひとり、イエス・キリストであると教えます。私たちがイエスを信じるなら、もはや自分の正しさを頼りにするではありません。イエス・キリストを頼みにするのです。

イエス・キリストは、私たちの罪のために死んでくださいました。それは、イエス・キリストの聖さによって、私たちが神に受け入れられるためです。

2. 神が咎められる物事を捨てる。(4 節)

ダビデは、他の神々に従う人々を非難します。その神々とは、宗教的な偶像などの場合もあれば、心の中で強く慕い求めるものの場合もあります。

私たちの最優先事項になるものはなんでも神になり得ます。私たちにとって、一番大切な人や物です。聖書の神は、私たちの愛を他の神々と分け合うことはなさいません。私たちは、聖書の神と他の神々を同時に拝むことはできないのです。

神の与えられた十戒の一番目は、「あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があつてはならない。」です。(出エジプト 20 : 3)

寺社仏閣で拝んだり祈ったりしながら、イエスに従うことはできません。イエスについていくには、これらのものを捨てなければならないのです。(マルコ 8 : 34-38)

3. 神に身を避ける。(1 節)

ダビデは、すべてにおいて神を信頼していました。神の懲らしめを受けているときでも、神から祝福されているときでも、神が面倒を見てくださると信頼していました。神の満たしを経験するには、人生のすべてについて神を信頼しなければなりません。

妻は 10 年ほど前、ある若い女性から相談を受けました。その女性は結婚してまだ 9 か月でした。妊娠しましたが、流産して子を失いました。

私はそこにいませんでしたが、その女性は妻と話して励まされたようです。その女性は現在、別の国で 5 人の子供たちに囲まれて暮らしています。

この女性は、神を避け所としました。つらいときに、神を信頼したのです。

そのときにも神の満たしを体験しましたが、今もその体験は継続しています。

4. 神の民の中にいることを喜ぶ。(3 節)

神の満たしを経験するためにダビデが勧めていることの最後は、神の民の中にいることを喜ぶことです。

神の子どもたちとの交わりは、任意で選ぶオプションではありません。神の満たしを得るために私たちが皆必要とするものです。

教会に通っていないなかったり、それ以外にもクリスチャンと会う機会を作っていないと、神の満たしを逃してしまう可能性があります。

私たちは、霊的に成長するためにお互いが必要です。(伝道者 4 : 9-10,12、へブル 10 : 24)

神の最善を享受するために、相互の責任が必要です。(箴言 27 : 17)

イエス・キリストは、私たちがともに交わりるときにそこにいてくださいます。(マタイ 18 : 20)

最後に、神の民の中にいることを喜べば、それが世の中への証となります。

元警察官が元テロリストと友だちになることはめったにありません。けれども、ふたりともがクリスチャンなら、その交わりが世の中への大きな証となります。

ダビデのように、皆さんも神のご臨在を現実のものとして実感できることを望みます。そうすれば、私たちは確実に、神の与えてくださる満ち足りた人生を楽しむことができます。